

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 全体ヒアリング（農林水産省）

- 1 日時：平成 22 年 9 月 2 日 17:05～17:45
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 1208 会議室
- 3 聴取者：津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員、中鉢議員
- 4 説明者：佐々木政務官、宮坂農林水産技術会議事務局長
- 5 説明概要

冒頭、相澤議員から、今回の全体ヒアリングの進め方について「個別の施策についての話は行わず、省全体の科学・技術関係施策の概算要求の基本的考え方、最重点化課題の対応、来年度の独法における取組について確認したい」旨の説明あり。

引き続き、農林水産省から資料について説明（科学・技術関係要求・要望額：1,184 億円うち要望額 0 億円）があり、質疑応答。

6 説明のポイント

- ・これまでの農林水産関係予算を効率化、重点化し、農林水産政策の主要課題（環境・エネルギー問題への対応、医農連携による健康社会の実現、食の安全等の確保）解決に必要な予算として、
 - －地球温暖化等に対応できる農林水産業の確立
 - －科学的なエビデンスによる医食同源・健康長寿の実現
 - －感染症の防疫措置に向けた新たな検査法の開発や抗口蹄疫ウイルス薬の実用化に資する技術開発を要求。
- ・特にグリーン・イノベーション、ライフ・イノベーションの 2 大イノベーションの実現に向けた予算を拡充要求
- ・競争的資金等の事業を総点検し、さらに適切かつ効率的に事業が行われるように見直しを行うことで要求額を削減。あわせて、農林水産技術開発予算について、より競争性が働くとともに、研究成果が確実に普及・実用化されるよう見直しを検討。

7 質疑応答模様

【津村政務官】

ご多忙の中、政務官にもお越し頂きありがとうございます。途中で失礼させていただきますので、最初に発言させていただきます。今の説明について言えば、もう既に要求・要望が出されているものである、その主旨は受け止めるしかないのですが、確かに科学・技術関係予算は基盤的なものだから、要望枠でリスクを取るよりも、要求枠で確実に取るというのは理解できる。しかし、特別枠は新成長戦略を国民の皆様に見えるところで加速させたいということもありまして、そういう意味でも、グリーン及びライフ・イノベーションといった新成長戦略に近いところを政策コンテストにかけても行ける部分も多々あると思う。堅実にされているのが目立つという印象。ただ、それは各省の政治的判断なので感想のみにとどめます。

指摘事項として 1 点だけ申し上げたい。私たちの作業を想像した上で、プレゼンをして頂

きたかった。私どものアウトプットは優先度判定をつけること。全体ヒアリングを開催する理由は、各省の要求における哲学を理解すること。

新成長戦略に沿った優先度判定を実施する上で、個別ヒアリングでご説明頂きたいこととして、個別施策について、どの部分が新成長戦略と響きあっていて、ゴールとしてどんな数値的イメージを持っているのか。数字が見えないことについては、せめてこういうことがやりたいといったことをご説明頂きたい。PDCA サイクルを回していくことが、政権交代前との大きな違い。成長戦略の個別のパーツはどこかで聞いたものばかり。しかし、これをきちんと進捗管理することが政治主導の国家戦略。是非、検証可能な状態を作っていきたい。1年後に「結果が出ていない」とか「言ったとおりになっているから今年も応援する」とかが言いやすい資料にして欲しい。一般の人にも分かりやすい形に個別ヒアリングで示して欲しい。

【農林水産省】

個別ヒアリングの際には、ご指摘のスタイル・仕組みにできると思うので、そのようにさせて頂きたい。最初の要望枠の話については、農林水産省はマニフェスト関連事項が多く、1割の要望枠に何でも入れるほど、予算的な余裕は無い状況。グリーンやライフの重要性は我々も認識している。

【中鉢議員】

中期目標が今年度で終わり、来年度から新たな目標に向けてスタートするとのことだが、その中で、目標をクリアしたものもあれば、目標をさらにあげて継続して取り組んでいくもの、新たに目標を設定するものがあるだろう。その割合を知りたい。その割合の変化が数字でもって分かるメッセージであり、そのような整理をして頂きたい。そうでないと要求額の中で埋没してしまう。

また、個別事項の話になるが、文部科学省、経済産業省、環境省にも聞いたが、木質系バイオマスの低コストというのは、農林水産省では、どの程度をターゲットとしているのか。

【農林水産省】

木質系バイオマスというのは、資源の有効利用の側面もある。資源の確保のほか、余剰物、残渣物を循環させるという意味もある。

ブラジルからエタノールを輸入するなどのエネルギー輸入は想定していない。国内で作るという意識も含まれている。また、製造コストは、エタノールで1Lあたり100円を目指すのが5年先の目標。これは車に入れるものとしては厳しい値段であることは承知。木から作るものの製造コストとして達成することを目指す。原料コスト等を含めると1Lを100円で量産できるものではない。もっと安くしないといけないことは認識している。

【中鉢議員】

経済産業省と目標コストが同じである。府省連携の中で、どういう棲み分けをしているの

か。農林水産省は国産をベースにしたものということか。

【農林水産省】

総合科学技術会議のアクション・プランを元にいろいろな施策を作っているが、特に、木質系バイオマスについて、直ちにエタノールにすることが大事かということと、トップランナー技術を使うと、もう少し別なやり方もあるのではないかということはアクション・プランの中でもご説明させて頂いている。

【奥村議員】

2点ほど、お伺いしたい。グリーン及びライフ・イノベーションにおける農林水産省の独法の役割・予算が大きい。新しい中期計画が来年度から始まることを踏まえ、新しい個別施策をどう展開されていくのか。それとも、既存の中期計画の延長として予算を要求しているのか。何をどう変えたのか。

本省で260億円を要求しているが、グリーンとライフは99億円。この差はどういう事業に使っているのか。その中味は。

【農林水産省】

独法の運営費交付金の内訳のかなりの部分は人件費。人件費はきちんとキープした上で、中期計画に沿って運営費交付金を算定している。中味の話については、まさに切り替えの時期にあるので、農林水産省から中期目標を示して、それに対して中期計画が上がってくることになる。まさに、そのミッションとして、グリーン及びライフに重点化するような中期目標を構成していきたい。

また、予算については、最重点化課題は99億円ですが、この他、重点的に推進すべき課題で98億円ある。内局予算の中で最重点化課題の占める割合が31%から38%に向上している。予算全体が減っている中で、重点化を進めている。

【相澤議員】

冒頭の津村政務官からの指摘については、追加の資料で対応して頂く部分と個別施策ヒアリングで対応して頂く部分があると思う。よろしくお伺いしたい。

以上